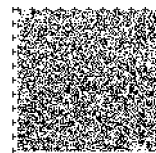


「都民ファーストでつくる『新しい東京』 ～2020年に向けた実行プラン～」の策定にあたって



2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、世界中の眼差しが東京に注がれています。今こそ、東京大会の成功と、それを梃子とした、東京ひいては日本の持続的成長に向けて、都政を強力に前に進めていくべきときであります。

その具体的な道筋を示すのが、この「2020年に向けた実行プラン」です。本プランを基に、この4年間、東京の重要な課題に集中的に取り組んでまいります。



私が目指すのは、「新しい東京」です。

誰もが安心して暮らし、希望と活力を持てる東京。成長を生き続けるサステイナブル、持続可能な東京。日本の成長のエンジンとして世界の中で輝く東京。この「新しい東京」をつくるため、「セーフ シティ」「ダイバーシティ」「スマート シティ」の3つのシティを実現していきます。

安全・安心・元気な「セーフ シティ」に向けた「地震が起こっても、倒れない・燃えない」まちづくり。誰もがいきいきと活躍できる「ダイバーシティ」に不可欠な「安心して子供を産み育てられ、子供たちが健やかに成長できる」環境の整備。世界に開かれ成長を続ける「スマート シティ」を目指した「世界をリードするスマート エネルギー都市」の実現。こうした大義ある政策を都民の皆様の共感を追い風として、着実かつスピーディーに展開していきます。

かつて東京市長を務めた後藤新平は、東京が関東大震災で甚大な被害を受けたとき、帝都復興院総裁として復興の道筋をつけました。「大風呂敷」とも呼ばれた後藤の政策は、東京の未来を構想した、「ピンチをチャンスに変える」大胆な発想から生み出されたものでした。

東京は、大きく飛躍するチャンスのただ中にあります。将来を見据え、今ほど大胆で新たな発想を求められている時はありません。

そこで、本プランでは、4か年の取組にとどまらず、2020年以降のサステイナブルな成長を目指すため、「東京の成長戦略の方向性」を示しました。

また、「Beyond2020」として、2020年の更にその先に目を向け、明るい東京の未来像の一端も描いています。

私たちは、今、2020年に向けた重要な位置に立っています。都民の皆様の「一緒に東京を良くしていこう」との共感とともに、2020年の大会の成功と東京の明るい未来に向けて、力強く歩んでまいります。

平成28(2016)年12月

東京都知事

小池百合子

